

59

平成25年3月24日

坐禅堂建立記念号

明珠



特集I

坐禅堂建立を祝して

寺院の根幹は

修行の道場

龍泉院住職 椎名 宏雄

「参禅ハ身心脱落ナリ、祇管に打坐シテ

始メテ得シ」（弁道話）

当山の創立以来、本年は満七六〇年！

そして、本日はまさに空前の歴史的な日であります。坐禅堂という禅門の根幹をなす修行道場一棟が、参禅会の主宰によつて建立され、当山に対して正式に寄進されたのです。これを空前の浄業といわずして、いつたいどんな表現ができましようか。

ふり返れば、四年前の秋一〇月、翌年に迫つた参禅会発足四〇周年の記念行事を行うために立ち上つた委員会は、行事円成を期として、その一環として企図していた坐

禅堂建立という大目標を実現すべく、建設委員会に舵を切つたのでした。こうして一六名の委員方が、会を重ねること三四回！これを支えた会員五〇余名の和合主導により、この希有なる大事業が無魔円成されたのであります。

建立の理念は、「自未得度先度他」。道

元禅師の箴言です。己れも精進しつつ、まず人さまがご安心を、という大乗ボサツ道の理想実現であります。かくして、会員諸氏の一片冰心の道念は、多くの助縁篤信者のご支援ご協賛を得て、四千何百万円もの淨財集積により、堂宇竣工という結実を遂げたのであります。折しも世は不況の中、加えてかの大震災の直後であつたといふのに。

当山を預かる小納としては、会員諸氏はもとより、多くの当山檀信徒有志、一〇指を

超える遠方ご寺院様方、大勢の匿名の方々、柏市倫理法人会の皆様、その他有縁の方々など、ご支援くださつた方々に、ただだ心より篤く感謝の意を捧げるしだいであります。

さて、仏教史を繙くと、釈尊が雨期修行のために建立された祇園精舎や竹林精舎などは、みな文字通りの修行道場。時代や地域による変転はしても、その最も基本的性格を伝統的に継承しているのが禅門です。ならば、形はあれど禅寺の基本は坐禅の道場！ 小納が従来より非力ながら坐禅を重視してきた理由は、まさにこの一点にあります。それが、夢にだに見なかつた坐禅堂の竣工保持。今後は、一にその本領を發揮し理念の実現にかかっています。そこで、すでに委員等の有志により、利用上のルール、清掃などの管理システムが整えられ、



杉木立に眩しく輝く坐禅堂

であります。

とまれ、本日を期して当山の性格は期を画することになります。小衲は自ら老駄駒に鞭を当てて一層の精進を新たに覺悟。有縁の方々のご叱声を切に賜わりますよう、お願い申し上げます。

頓首合掌

道業一興

建設委員長 小畑 節朗

誠に有難いことでございます。お蔭様で念願の坐禅堂が落成し開單式を迎えることが出来ました。これも偏に四二年に涉る堂頭椎名老師のご指導と参禅会員の和合力、龍泉院様のご縁につながる各位のご協力・ご支援の賜物と、厚くお礼申し上げる次第でございます。

特に雲堂での修行について、堂内の作法や堂頭を中心とした運営方法を事細やかに示された『正法眼藏』「重雲堂式」には、

一、堂中の衆は、乳水のごとくに和合して、たがひに道業を一興すべし。い

会員が主導して四月より実施の運びとなつています。あたかも、宗門側からの慇懃により、**当山は「参禪道場」と公認!**

坐禅を「静中の工夫」と称するのと同様、他の行為すらても修行とするのが禪門の特色。そこで小衲が重視してきた他の柱が作務!

現在、約一二〇〇坪の境内に同数の植木・庭木があり、これに山林を加えると「動中の工夫」たる作務の対象は無尽蔵

ここに立派に出来上がった坐禅堂の正面には、立派な『雲堂』という堂頭老師筆の横額が掲げられました。

なぜ坐禅堂ではなく『雲堂』かと老師にお尋ねすると、坐禅堂に坐禅堂という額は殆んど見受けられず、両本山では永平寺様は『雲堂』、總持寺様は『選佛場』としておられる由であります。

まはしばらく賓主なりとも、のちにはながく佛祖なるべし。しかあればすなはち、おののおのもにあひがたきにあひて、をこなひがたきををこなふ、まことにおもひをわすことなかれ。

これを佛祖の身心といふ、云々。

という高祖さまのお言葉があり、そのお言葉をここに頂戴いたしたいと存じます。

また坐禅堂内前門の柱には同じく堂頭老師の筆で、向かって

(右) 端坐六年之蹤跡可見

面壁九歳之声名尚聞
の対聯が掲げられました。これはご存じの道元禪師の『普勸坐禪儀』の一節、「彼の祇園の生知たる、端坐六年の蹤跡見つべし、少林の心印を伝うる面壁九歳の声名尚聞こゆ。」から戴いたものであります。



ご老師が揮毫された横額

意味は、右聯は「釈尊の出家から六年の坐禅修行の尊いあとかたを確り見極めるべき」であり、左聯は「達磨大師の少林寺に

九年の長い歳月を面壁坐禪せられた、これはもとより悟りを開く為の坐禪ではなくただ兀兀として端坐する、これが初祖の道本であった。」（『普勸坐禪儀講話』秦慧玉禪師より）との謂いであります。

ですからこの聯は正面の『雲堂』額を受けて、坐禅修行の本来のありかたを的確に表現したものであります。

この「雲堂」の中では、遠くは釈尊が行じ、中国に伝来しては達磨大師が行じ、日本では道元禪師が行じ、そして代々相承してきた『正伝の坐禪』を共々今日只今此処に行じるのだと、堂頭老師が示されたものと肝に銘じております。

「相続は大難」と洞山さまがいみじくも仰せられましたが、『佛祖正伝』の坐禪を今後次の世代に相続すべく、心を新たにして及ばずながら精進努力する所存でござります。

今後共一層のご鞭撻とご支援をお願いする次第でございます。

合掌

優しく迎えてくれました

千葉市 寺田 哲朗

私は病気で長期欠席をしましたので、成道会で忽然と現れたお堂に目を疑うほどびっくりしました。そして暖かい堂内で気持ち良く坐させていただきました。東司が堂内にあるので安心です。目前の板壁に節目がないのは、模様に気を取られないように配慮されたこととお察しました。

本格的な坐禅堂でありながら優しく迎え入れて頂いて、嬉しい初坐りとなりました。老師はじめ建設委員の方々のご尽力に合掌九拜です。

去年、念願の坐禅堂が完成し、一〇月二八日最初の口宣のご老師のお言葉「湘南譚北は黄金の国、無限の平人陸沈せらる」に続き、「今案する我見の身を捨てて、一向に佛制に順すべきなり」、「非思量、これ乃ち坐禅の要術なり」と菩提の直指単伝の道を明示された。

坐禅堂の庭には、春の気配さえ感ずる、



春の気配を感じる蟠梅

地の利もある柏市の工匠堂に依頼することになった。

決定後、工匠堂と種々打合せを行い、建設委員会の要請も取り入れ屋根の形状は入母屋造となり、本堂に見劣りしない「堂々とした坐禅堂」が完成しました。

中村正市さんが辞退されたあと福島県郡山市長沼に在る曹洞宗永泉寺（国内最北の広葉樹の古木が茂る寺）庫裡を施工した大工さんを呼び大悲殿の納戸に寄宿し施工することを検討したこともありました。合掌

蟠梅（別名唐梅）が新坐禅堂をめでるがごとく輝やいた。花言葉は「先導・先見・慈悲」。

蟠梅一枝 朝日に光る 坐禅堂

合掌

坐禅堂の神々しさにうたれて

柏市 五十嵐 翁郎

切に思うことは必ず遂ぐるなり

我孫子市 清水 秀男

坐禅堂の基本設計は建設委員の中村正市さんが委員会の要望に沿つて幾度も練直し、坐禅堂本体を切妻屋根とし建設費を二千五百万円で納めることになった。

建築に当たっては、工務店を営んでいる中村正市さんにお願いすることになった。ところが中村正市さんが体調不良で施工が出来なくなり、社寺建築業者に依頼することになり、結果は三社の中から、実績と

流山市 中嶌 宏誠

建設委員会に参画して

合掌

待ち望んだ坐禅堂が遂に完成しました。冬晴れの朝、大悲殿への廊下の下をくぐり抜けると、朝日を浴びて金色に輝く銅板の屋根、純白に輝く白壁の坐禅堂が目に飛び込み、そのあまりの神々しさに圧倒されてしましました。

その時、神々しいこの坐禅堂に恥じないような坐りが出来るよう、務めなければならぬと思つた次第です。

椎名老師と参禅会皆様の「自未得度先度他」の理念の下に、熱き衆力和合の力で悲願の坐禅堂建立が成就したことは、誠に喜びに堪えません。まさに道元禪師の言葉「切に思うことは必ず遂ぐるなり」の体現であり、「衆心合力自成春」（小畑代表幹事）の心境です。今後、四弘誓願「衆生無辯誓願度、煩惱無尽誓願断、法門無量誓願

思いのこもった御堂

柏市 武田 博志

坐禅堂は選佛場ともいう。いったい誰が誰を選別するのか、ずっと疑問に思つてきた。昨年一二月の口宣で、仏を作り出す所の意と老師からうかがつた。禪寺のなかでも特別な聖域である。仏さんの力を借り、頭を空っぽにして坐りたい。

坐禅堂建立の悲願は、具体化に向け数年かけ練り上げられ、形となつた。外構工事は道友の奉仕だった。志の高さと無私の行為を胸に刻み、有難く坐させていただきま



学、仏道無上誓願成」を常に念じ、「新僧伽の創生と興隆」の実現に向けて一層精進、練磨いたす覚悟です。

新しい坐禅堂に坐つて

柏市 牧野 洋子

真新しい坐禅堂に初めて向かう。真白い堂が朝の光に輝いている。単に坐る。口宣が響く。何という僥倖の刻に居合わせているのか。有難さに涙がこみあげてくる。「ただわが身をも心をも、はなちわすれて、佛のいへになげ入れて」という「生死」の巻の一節を思い起こす。

聖域から俗界に戻っても、「自未得度先度他」の心をもつて無常の世の中を歩んでいけるよう心新たにしたい。ここに至る多くの方の尽力に心より感謝申し上げます。

ホームで坐禅

さいたま市 美川 恒子



ご老師が揮毫された新しい坐禅牌

毎月の参禪の上山の度ごとに着々と建物が完成する様をウキウキと待ち遠しく眺めてまいりました「坐禅堂」が、いよいよ現実の形となり、神々しいほど眩しい白壁の坐禅堂として完成いたしました。今後はアウェーではなくホームでの坐禪に一層の努力を重ね精進してまいる所存です。

今の世代の方々は申すまでもなく、後々の世代の方々にも、龍泉院の「坐禅堂」が存在いたしますことを喜ばれ、大いに活用されますことを心よりご祈念申し上げます。

ところで、坐禅堂建設に当たり、初めから建設委員会の一員として携わる事が出来た事は誠に有難い事だった。私は公務員時代のモニユメントとしているのは、東京ビックサイトを建築担当課長として計画・設計・工事まで見届けてきた事である。総工事は一九〇〇億円。我が国の単体施設としては恐らく最大級の建築である。

一方、我々の坐禅堂は約三九〇〇万円。その規模や内容において遙かに小さいが、私にとっては全く同列の、否それ以上の建築物として受け止めてきた。そして三〇数回の建設委員会の過程において、御老師、各委員の皆さんへの熱意や発言、実行力から多くの事を学ばさせられた。心より感謝する次第である。

現在の坐禅堂への思いは、「新しい革袋には、新しい酒を」である。新坐禅堂に相

ご老師はじめ、龍泉院参禪会々員一人一人の想いがここに結実し、境内に堂々の坐成を見ることができました。

新しい革袋

柏市 加藤 孝

まず一番印象的な出来事は、結城市の坐禅堂見学会の最中に三・一一の地震に遭遇

応しい坐禅に如何に自分を高めていくかが最も求められていると自覚している。
竣工　おめでとうございます。

無量心に感謝

柏市 永野 昭治

坐禅堂が竣工しました。偏に堂頭さま、建設委員の方々、それにご支援くだされた多くの皆さまがたの無量心（慈心・悲心・喜心・捨心という他を思いやる広大な心）に感謝申しあげます。有り難い！ という思いに胸を膨らませながら思わず合掌し、じっと仰ぎ見ました。

坐禅堂では、大勢の佛さまが、仏になり得ても、さらにその先の仏としての修行をなされております。入堂の心得には「道心ありて名利をなげ棄てん人入るべし、徒に真なからんもの入るべからず」とあります。

身を整え、心を鎮め、身も心も佛さまにおまかせして、坐に列なつてまいりたいと思います。



単に坐つて

鎌ヶ谷市 小山 齋心



前門に掛けられた坐禅牌と帳

坐禅堂竣工に想う

鎌ヶ谷市 相澤 善彦

鍬入れの気合とピリッと冷えた足元。棟上げの掛け合いの響きと青い空。棟札に記されし我が姓名。額に汗し通つた直営外構工事。そして竣工！！

白く輝き天女とも見える坐禅堂。その足元をしっかりと固め守る雨垂れ溝。これからも、作務に励みこの美しさを後世に伝えたい。

積善

祝、感謝、新坐禅堂完成！

我孫子市 小畑 二郎

「初心こそ大切にしなさい」というご老師のご指導に従つて、新坐禅堂に始めて坐させていただいた時の感想をここに記させていただきます。本堂で九年前に始めて坐らせていたいた時は、何も分からぬままに、何か大きな自然に抱かれているような気持ちになりました。龍泉院様を取り巻く環境は、日本の原風景を残した実に懐かしいものでした。春にはホトトギスをはじめ様々な鳥たちの鳴き声、夏には激しい雨の音などなど、四季の変化を感じながら坐させていただきました。そのような気持ち

は今でも大切にしていますが、新坐禅堂では、それよりも何か凝縮されたものを感じ

参禪会待望の坐禅堂が建ちました。

初めて單に坐りました。不安と目新しさ

ます。気持ちは外界よりもむしろ内面に向かいます。

平成二五年の一月二七日のこの年最初の月例会の参禅の日は、まさに雲ひとつない快晴でした。新しく敷きつめられた石畳と坐禅堂の白い壁が朝日にまばゆく、身の引き締まる思いで坐禅堂に入りました。参禅者合計三七名、ほとんど隣の会員と膝を接するようにして坐りました。調身、調息、

調心。最後の心はなかなか整いませんでしたが、呼吸を整えることに集中しました。

暫くすると、頭の先から腰のあたりまで、まさに「スーッ」とする爽快感が得られ、この感じは、一炷の終わるまで続きました。

普段は、仕事のこと、雑事のこと、人間的な様々なことに、あれこれ考え、迷いに迷っていますが、せめてひと月一回の坐禅

の時には、すべて忘れ、何も考えない時間を持とうと考えてきました。その挙句に、坐禅の後には、肝心なことも忘れて帰つてくる始末。家族にもあきれられています。

しかし本人はそれで「すっきり、スーッと」する解放感に浸れます。このまま残りの生涯を、この素晴らしい坐禅堂で坐りつづけることができればと願っています。

「生を明らめ死を明らむるは仏家一大事の因縁なり。生死の中に仏あれば生死なし」という『修証義』の出だしの一節は、仏道の真髓を示していると思います。

来世の存在を信じ、生と死の継続を教えるこの思想は、仏教の中心思想であり、これ無くしては『般若心経』の理解は得られないと宗教学者は指摘します。

新しい坐禅堂の開基式を迎える運びに至ったことは、貧者の一灯を投じた者として、また、新しい施設を利用して貰える者として大変嬉しく思います。参禅に新しい楽しみが増えました。建設委員各位のご

努力に感謝申し上げます。

坐禅堂完成の年に私は喜寿を迎えました。古希の年の遅い入門であるけれど、宗

門の高僧に倣い、六年単位にステージを上げ、少なくとも三ステージは続けて、最後には、人を導く役を得たいと意気込んでいました。しかし、第二ステージを迎えた今は、まだ全く進歩無く、初心の域を出ていません。

経年変化がかなり進んだ同年代の者の集まりでは、仏道修行者の一人として、「心安らかな臨終を迎えるには仏道が良い」と話をし、受け入れて貰えます。しかし、後輩の指導は「広い視野と科学の目を持つて物事に対処せよ」と主張して来た手前、科学的根拠のはつきりしない来世を信じよとは、些か言い難くもあります。



諸縁を放捨し、萬事を休息して坐る

生死の中に仏あれば生死なし

市川市 達坂 國一

この様に現実社会と修行との狭間で、自身の矛盾を抱えながら、今後もなるべく雑念を排しながら、坐りたいと思つています。

坐禅堂完成の感想

我孫子市 刑部 一郎

平成二二年一〇月に「良寛さんと出逢う旅」で、椎名老師から坐禅堂を建設するとのお話を初めて聞いた時は、これは大変な事と思つたことを憶えております。完成して、真新しい坐禅堂で坐ると、感慨無量ですね。参禅会に参加して七年目になりますが、仏の教えの実践がなかなか出来ていな毎日ですが、坐禅堂建設活動に少しでも参加でき、それを通して仏の教えのありがたさが、少しでも分かつたことに感謝しております。

坐禅堂で充実した時空を

柏市 登森 秀志

平成二〇年三月二三日、好奇心半分、為坐禅の心半分で龍泉院の山門をくぐりました。以来五年が経ちますが、当初は、日常と違う空間での時の流れの中に自分の身を



坐断の人を待つ坐蒲たち

「魂」を入れたい

柏市 岡本 匠房

坐禅堂という「佛」ができましたが、これに「魂」を入れることが肝心と思つています。建設委員会をはじめ建設にたずさわったいろいろな方々の苦労に深く感謝しております。同時に、それを活かすよう、坐禅にあたつては、「『発心』とは、はじめて『自未得度先度他』の心をおこすなり、これを初發菩提心という」（『正法眼藏』「發菩提心」）を肝に銘じ、初心に帰つて坐りたいと心していますが・・・さて。

しかし、自分の外に時の流れがあるのでなく、坐している時空を濃密なものにするかどうかは、自分自身ではないかと思うようになりました。上手く表現できませんが、坐ることが少し能動的になってきたようになります。

坐禅堂の完成

八千代市 山本 聰

私が初めて龍泉院に参禅した三年前、坐禅堂を建立するというお話を聞いた。それが、いつの間にか思いつき関係者になつていた。外構の自力工事を微力ながら手伝

ず、未だに仏道の修行とは言えない身と心ですが、新たな坐禅堂で、自らの充実した時空つくりに努めたいと思います。ご老師、建設委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

合掌

つた。今振り返るとなかなか面白かった。

「作務は動中の工夫」。この言葉の意味を坐禅堂が完成した今、改めて味わいたい。坐禅堂は完成しても動中の工夫はまだ終わらない。多くの人々の願いが込められた坐禅堂なので、坐るときは感謝してしっかりと坐りたい。



新しく製作した礼盤

龍泉院 坐禅堂

竣工に際して

柏市 石原 良浩

このたびは坐禅堂完成おめでとうござります。参禅会の皆様の四〇余年にわたる熱心な活動の結晶と思えば、龍泉院に通いはじめて二年あまりの私が一緒に坐らせていただくことは、ただただ恥ずかしいばかりです。

坐禅堂完成

柏市 春日 仁美

まずは坐禅堂のご竣工おめでとうござい

ます。

建設委員会の方々を中心に、建設中の皆様のご苦労を間近で拝見しておりました

が、作務にも参加せず、坐禅堂に坐らせて頂くばかりで、大変申し訳なく思つており

ます。一方で建設の様子、皆様の想いを、これから使用させて頂く新しい世代に伝え、末永く大切に使用させて頂く事が務め

禅堂建立の件をホームページで知り、関心をもつたことが参禅のきっかけでした。また柏市近辺でしっかりと坐れる施設が見当たらないことと、日頃古い建物を写真に撮るのが趣味だったことから、建設のプロセスに関心を持ったことも手伝いました。

お堂が出来上がってみると小振りながらも冷暖房完備の実に立派な施設で、失礼ながら自分自身の思いまで成就された気持ちです。しっかりと器ができたことは喜ばしい限りで、これからも精進を怠りなく、改めて参禅させていただきたいと思いま

す。

昨年に初めて上山してちょうど一年目の節目に、初めて坐禅堂で坐らせて頂き、大変感激したのと同時に、改めて修行に励もうという気持ちを強く致しました。

三月の開单式も楽しみにしております。

今後ともご指導の程宜しくお願ひ致します。

坐禅堂がひかり輝く

柏市 原 司

一〇月二八日、新しく建立された坐禅堂で最初の坐禅がありました。新参者の私が何の苦勞もなく、このご縁に恵まれたことは、有難くただ深く感謝しております。

坐禅が終わった後の喫茶・座談の時、建設委員のご報告を何度も拝聴しましたが、龍泉院参禅会の皆さまのご苦心、ご努力に

頭が下がりました。

会報誌『明珠』を読ませていただき、参禅会の充実と発展の歴史も学ばせて頂きました。素晴らしい坐禅歴のある皆さまの仲間に加えていただき、これから的新しい坐禅体験に心を弾ませています。

一二月の坐禅会の座談の終わりにご老師

が話された、これから坐禅堂の使用計画を思い起こします。「坐禅の日を多くし、広く社会の皆さんに坐禅の心を学んでもらいたい」と抱負を語られました。

坐禅堂がひかり輝くことを祈ります。

坐禅堂に坐つて

柏市 榎戸 重記

私は参禅会に入会して一年五ヶ月になります。坐禅をすることでの

① 身の回りの事象に執われない。
② ものごとの真実のすがたに、正しく対応していく心のはたらきを調べる。

③ 無・空・無念夢想。

となれるよう「坐る」を実践しています。

坐禅堂に坐つて、これらを体得していきたいと思っています。

また、「坐禅堂建立の趣旨」にある、将

来を背負う若者達の研修や中高年の生涯研修の場として、坐禅堂が活用されるように、自分も出来る範囲でお手伝いさせていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

坐禅堂と共に

松戸市 河本 健治

平成二四年まだ肌寒い三月に参禅のご縁を頂き、何もわからない自分にこの先々務まるのかと緊張と不安の入山でした。その頃すでに坐禅堂が皆様の愛情を背に産声を上げていました。興味本意ながら上棟式に参列させて頂き、改めてこの御堂が並々な



禅宗の最も古い形に近い花頭窓



合掌

これからは坐禅堂と共に良き師のもとで、「筋道わからずば例に習う」の故に、先輩に習い精進したいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

らぬ努力と厚い思いで着工された事を知り感動しました。
また、あの暑い盛夏の頃、職人の渾心的な仕事にも感動しました。
匠の伝承の技に見惚れないと、いつしか御堂は姿・形を現し、屋根は金色に輝き、白壁は眩しさを放ち、清楚で堂々とした坐禅堂が竹林に完成しました。

幸い作務にて雨水溝の一部を手伝う事もでき、さらなる愛着と慈しみを感じながら、今この新しき御堂にて坐禅を出来る二重の幸運に感謝しております。

特集II

坐禅堂建立に携わつて

龍泉院坐禅堂の建立にあたり

工匠堂社長 渡辺 哲也

龍泉院御老師、龍泉院参禪会の皆様、並びに関係者の皆様、開基おめでとうございます。御老師より坐禅堂建立のお話を伺いましたのは、かれこれ五、六年前のような気がいたします。社寺建築は初めにお話をあつてから具体的に計画、着手に至るのに五、六年かかるということはよくあることなので、首を長くして待つておりました。

二年前のあの震災の日、皆様とともに他寺院の坐禅堂見学会にお供いたしました。小生は一軒目の八千代・長福寺様の見学を終わり、仕事に戻らせてもらいましたが、皆様はそれから茨城県方面に行かれ、大変な思いをされたことをお聞きしております。弊社も、当日、その翌日とお得意様の屋根にシート掛

け、瓦の整理に追われ、またその後の半年間というもの、復旧工事に多忙を極めました。そんな中、夏から秋にかけてお見積りを何回か提出させていただきました。厳しい条件提示をいただき、正直「どうしたらいいのだ

ろう?」と何回も悩んでおりましたが、この条件提示も皆様の並々ならぬ情熱と真剣さの現れで、弊社としても全力で取り組む覚悟をいたしました。そのため歌舞伎座の仕事をもお断りいたしました。

建立に当たり、盛り土の上に建てるとの事で、若干心配しておりましたが、質の良い赤土を重機で何度も乗り上げているのを見て、その綺麗具合に安心いたしました。これなら十分な地耐力が得られ、布基礎でも十分と思われましたが、べた基礎を考えました。ただ土の部分を残したいとの事でしたので、半べた基礎に致しました。

弊社は文化財建造物や二百年以上たつた建物の修復を手掛けており、文献や先人の教えから得られる技を駆使して、腕や技術を磨いております。その中でも最も重要なことは、今ある古建築が語る言葉に耳を傾ける事だと思っております。



重機で赤土を何度も締めて整地された盛土(平成23年11月)

目に見える負の部分では土台、柱脚部、軒先の雨水による腐食、仕口の隙間、軒の歪み、軒中央部の垂れ、隅木と垂木の空きの不揃い、軸体、構造体の歪み等で、「この様にならないうように心掛けて仕事をしなさい」と語りかけてくれます。

木材選定では、水に強いヒノキ科のヒバ材を使い、お見積りでは節のある特一等材といきましたが、大きめの木材を購入し製材することにより、ほとんどの部分で無地、上小材を使うことが出来ました。ただ費用が高く



ふんだんに高級材が使われています

つき、その分は残業で何とか凌ぎました。
土台はどうしても雨がかりになるので、ネコ敷き等により通風の良いように工夫し、柱は最下部に水留剤を何層にも塗り込み、最下部から水が浸み込むのを防いでおります。

丸桁（桁）の継手は追掛け大栓継ぎ、車知継ぎ等とし、大梁は台持ち継ぎ、兜蟻継ぎとし、茅負^{かやおい}は茅負車知継ぎとし裏甲^{うらこう}を印籠で落し、継手仕口は最良の技を駆使し、頑丈に木組みをいたしました。

軒の美しさは茅負、裏甲、軒付の姿で決まりますが、全て中央が最も低く隅に行くに従いゆつくり反り上り、ゆつくり部材背を増しており、緩やかな総反りとなつております。この軒先を支える頑丈な括木^{はねき}が、何年たつても軒先の中央部が上がつて見えたり、隅木が下がつて見えたりしないことを保証しております。

化粧垂木^{なじき}の空きは隅木のぶつかりまで、均等に割り付けてあり、この反りのある軒と隅木の納まりが宮大工の一つの証明であります。多々見かけるのは、隅木のぶつかりで空きが伸びてしまつたり縮んでしまつているのを見かけます。

内法材につきましては、柱等の痩せにより、



入念に寄棟細工(平成24年4月)

花頭窓は美的感覚を損なわない範囲で禅宗のものとも古い形に近づけ、中棟もそれに習つております。

単につきましては、可能な範囲、御要望に沿うような淨縁とし、全体の納まりも綺麗にまとめました。内側の板壁も割れ等が生じたとき比較的補修が容易なようにできようにな

つております。

ご説明したらさりがありませんが、以上が私共が普段から心がけている事で、どの建物でも普通にやっている事で、数多くの古建築が語りかけてくれた遺産です。木組みや美しさに拘つたのは、何百年後かに解体修理が利くように、またこの坐禅堂がその時の匠たちに、より多くの貴重な事を語りかけられるよう、との強い思いがありました。

工期の遅れにも関わらず、辛抱強くお待ちいただきまして誠にありがとうございます。

そのお蔭で最後まで丁寧な仕事が出来ました。また御老師の建築への造詣の深さに驚くとともに、その知識や知恵に大変助けられ、勉強になりました。

参禅会の皆様は聞くところによりますと、大手の重役経験者や高度な技術者や学識経験者等々、多彩な方々がいらっしゃるとの事で、仕事の進め方、物事の考え方等々、大変勉強になりました。

私はこの二〇年というものの神仏にお願いする事は一つにしております。「良い仕事ができますように」とだけお願いしております。大変良い仕事をさせていただきまして、誠にありがとうございました。工匠堂 不哲 渡

坐禅堂が坐禅している

設計担当 中村 正市

三月二十四日坐禅堂開單式を無事迎えることが出来まして、心からお喜びを申し上げます。

私は建設委員の一人としてあまり協力できなかつたことを、申証なく思つております。私が担当した仕事は設計図で、ご老師をはじめ委員一人ひとりの坐禅堂に対する想いや意



中村さんが作成された坐禅堂立面図

見を図面にするのが仕事でした。

私は民家大工としてこの道に入り、色々な所の建築工事で初めは大工として、やがて責任者として、数十年久しきにわたつて働いてきました。坐禅堂の設計段階でどのようなことに苦心したか、設計にまつわることを一言で云うと、「一番苦労したのはやはり形ですね。構造の如何にかかわらず、人の心を引きつけ手を合わせたくなるような坐禅堂の形にする」とことでした。

それで自分でわからないことや未経験な仕事のことなどは、仕事仲間を訪ねて色々なアドバイスを受け、教えてもらいました。特に今回お世話になつたのは、宮大工の職人集団である金剛組の棟梁をはじめ宮大工の職人の方々です。時には、「こんなことは自分の弟子にも教えないぞ」と、からかわれたりしたものです。さらに休みの日には時々色々な寺院を見て歩きました。そのお陰で秩父札所と坂東札所をほとんど回ることになりました。

このように坐禅堂建立についての知識や技術情報を入手しながら、皆さん想いを微力ながら図面にしてみました。そしてご老師はじめ委員の皆さんに気に入つていただいた設計図を土台として、宮大工の工匠堂の渡辺社

長さんに施工して頂きました。宮大工の優れた伝統技術と丁寧な仕事により、曲線の美しい屋根をもつた素晴らしい坐禅堂が仕上がりました。図面を引いたものとして、この上ない喜びであります。

建物の美しさは屋根の形によるところが大きさいようです。屋根は鶴が翼を広げた形が最も美しいと言られていますが、竣工なった坐禅堂の屋根からは、まさにそのようなイメージを受けることが出来ます。

完成した坐禅堂を拝観しますと、「坐禅堂が坐禅をしている」ように見えてきますが、これは皆さまの坐禅堂に対する切なる思いが、そうさせているのではないでしょうか。私自身はあまりお役に立てたとは思っていますが、皆様の想いを少しでも形にすることに役立つことが出来たのであれば、うれしく思います。坐禅堂建立に参加し貴重な経験をさせていただき、皆さまには感謝を申し上げる次第です。

私はここ二年ぐらい忙しかつたり怪我をしたりで、参禅会に参加することが出来ませんでした。これからは少し時間ができますので、坐禅に精進したいと思います。

建物班の経過

建物班長 中島 宏誠

建物班メンバーは小畠節朗、加藤孝、中村正市、小畠二郎、遠藤昇委員と私の六名で、役割は建物の主要構造体（主に軸組、小屋組、屋根、壁、内装、外装）施工状況の確認です。班からの要望は、四月の委員会で工匠堂に土台の防腐処理を施すよう要請し、順次以下の



分厚い破風板の取付け(平成24年6月)

ような提案依頼を行つた。

建物班長からは外単、内単及び付属建屋の床下溜まり水の排水、安全対策として墜落事故防止のため工事用足場に昇降階段の設置、確認申請図に準拠し火打土台と火打梁の設置。また、加藤委員の要請で、付属建屋に長尺の火打梁二箇所の追加挿入。中村委員からは内単床と天井に点検口を設けるようとの提案があつた。

基礎と土台の隙間に鼠侵入防止の網を、壁からの熱損失低減に断熱材厚さ五センチを一〇センチにしてはと提案したが、建設委員会で検討の結果、天井裏に換気扇二台を五万円で設置することになった。

衛生器具（便器、手洗い、鏡、流し）の調達では、参禅会員である石原良浩さんから協力の申し出があり、工匠堂が調達する価格よりも五万円程安く購入することが出来た。感謝！感謝！

納戸の格納方法のレイアウトは加藤委員が、下駄箱の使い勝手の検討・調整は小畠（二）委員が行つた。また当初流し台は玄関ホールに置く予定だったが、坐布棚を置くスペースがなくなるため納戸に置くことになつた。坐禅堂正面出入口や、花頭窓及び堂内欄間

の敷居に水切りが無く、大雨のとき雨水が流入し水垢で壁が汚れる恐れがあるので、ステンレス製水切りの取付け（工事費二五万円追加となる）を委員会に提案したが、検討の結果、木製桟木とシリコンで対応することになった。経年変化による剥離入水が心配！

建屋構造の進行状況の確認記録は、三月一九日の土台敷設から内装仕上げまで行い、棟梁の渡邊一弘、大工の藤田忠治、槌谷義男、高橋大吾各氏の巧みな技に触れることが出来た。加藤委員には建物班の任務以外に、建築確認申請の際には工匠堂に同行し役所まで行き、また竣工検査時にも立会つてもらつたお蔭で、滞りなく検査が終了することができた。

中村委員には施工業者が工匠堂に決まるまで、坐禅堂の基本設計から詳細設計まで関わって貰った。小畠(節)委員・建設委員長には、淨化槽施工時期トイレの施工方策等について珍重

外構班の仕事について

外構班長 松井 隆

坐禅堂建設に関して外構班の仕事内容は、主に①基壇に関すること、②歩行路に関する



外構班直営の雨水排水溝

仕上がりをどうするかが検討テーマでした。ここでは相澤さんから寄進頂いた自然石（安山岩）を坐禅堂周りに使用するコンセプトを建設委員会に説いたところ、椎名老師をはじめ建設委員の賛同を得ました。さらに工匠堂の社長様も、この自然石案が最も審美性・施工性に優れ、工費も安いと言われたので、採用することになりました。

また基壇の葛石は濱島石材店様から御影石を寄進頂き、側壁部分はタイル張り構造で、工匠堂様が基壇全て施工することになりました。

二、歩行路につきましては、濱島石材店様が龍泉院に寄進頂くことで、話が進められていました。歩行路の位置は、永代供養墓と観音菩薩像の前の歩道を真つすぐ延長し、大悲殿廊下の真下をくぐり抜け、坐禅堂の正面に直線的に取付くよう、当初から計画されています。

そこで、右玄関口から正面歩行路に取付く歩行路と階段について検討しました。階段については緩いスロープの必要性を議論しましたが、車イス等で入堂する際は木製板枠を渡すこととし、斜路を設けず、三段にすることに決まりました。

歩行路の位置については、椎名老師、濱島石材店様、工匠堂様、外構班の立ち合いのも

と、植栽等に配慮し決まりました。

三、雨水排水溝については、調査の結果、坐禅堂周辺の排水必要延長が四七mにもなり、工費を抑えるため、排水断面の検討、見積り、材料調達、そして施工を、外構班チームの直営で取り組むこととしました。

排水断面の検討は、基壇と同様に相澤さんから寄進頂いた自然石を張石に使用する考えを基本にし、ホームセンターでの調査やコンクリート材料費の積算をもとに見積りを行い、当初予算に二五万円を計上して頂きました。

施工に当たっては、排水溝中心位置、正面の排水溝の高さ、排水勾配の確保、基壇のない北西側の建築基礎と排水溝の間のコンクリート処理等について、椎名老師や工匠堂様と事前に相談して進めました。そして、着工は建築足場が撤去された後の一〇月二十五日となりました。

まずは丁張りが大事で、素人集団なりに糸を張り、位置と高さを決めてスタートし、手探り的などころがありましたが、試し施工に取り掛かりました。この時に、強力な「助っ人」として、檀家の染谷巨志さんがチームに加わって頂き大変助かりました。

染谷さんは、排水管施工に関して雨水樹

の提供を頂いた上に、ミニ掘削機・ユンボー、ダンプトラック、コンクリート打設器具等の提供を頂くなど、施工全般に亘って応援して下さい、お蔭で工事が大変捗りました。
もし染谷さんの応援が無かつたら、年内の完成は危ぶまれたかもしれません。奉仕にご協力くださった染谷さんには、この紙面を借りて厚く感謝の意を表したいと存じます。

また、参禪会では小畠節朗さん、永野さん、

河本さん、武田さんと杉浦さんにもお手伝いを頂き、完成の運びとなりました。
最終的には、セメント五〇袋(=10kg/袋)砂利・砂の骨材一五³m³等を使用する大変な工事でしたが、皆さんのご奉仕により、費用は一九・五万円に収めることができました。

外構班の仕事は無事一二月二三日に後片付けを終え、年内に完成することが出来ました。
以上、外構班の報告に代えさせて頂きます。

設備班活動報告

設備班長 杉浦上太郎

平成二二年からスタートした四〇周年記念行事実行委員会は、その後、坐禅堂建設委員会と名称を改めながら三年間の活動を継続し、

今日に至っております。

平成二四年二月から、活動の効率を高めるため建設委員会を、①建物班、②外構班、③設備班の三つの専門班に細分化しました。

設備班のメンバーと主要任務は左記のとおりです。

◆メンバー／五十嵐嗣郎、添田昌弘、刑部一郎、田上淳一、杉浦上太郎（五名）
◆主要任務

(一) 電気設備／照明器具、エアコン、換気扇、音響設備等

(二) 防災設備／自動火災報知器、消火器、避難誘導灯等

(三) 坐禅堂内備品・仏具／烏鵲沙摩明王像、

礼盤、帳、簾、坐禅牌、梆、殿鐘、堂頭椅子等

(四) その他備品／スリッパ、傘立て、掃除道具一式等

(一)(二)については、主に杉浦委員が、(三)は五十嵐委員、(四)は刑部委員が担当いたしました。

先ず、照明器具の検討。エコ思想に合致するよう全ての照明器具をLEDとしました。

坐禅堂内の照明器具が最も重要な主要メーカーのカタログを全てチェックした上、ショ

ールームで現物を確認。竿縁天井にマッチする和風デザイン・薄型・調光機能のついたものを選択条件とした結果、東芝製が最も相応しいことが分かり決定しました。

五十嵐委員は、稻荷町・浅草の専門店をくまなく歩き、「帳」「簾」「烏賀沙摩明王像」の調査からスタート。小畠代表幹事様の協力もいただいて、素晴らしいご尊顔の「烏賀沙摩明王像」を購うことができました。「帳」「簾」「坐禅牌」は椎名老師の知己のご紹介によって、京都の老舗・石川法衣店にオーダーする



探し回った竿縁天井に合う和風のシーリングライト

ことができました。また、木工関係の備品は、全て工匠堂にて作製していただくことになりました。

刑部委員は、一早くジョイフル本田荒川店に出向き、掃除用具一式の候補品の選択・見積り整備を行いました。また、椎名老師から

坐禅堂内で使用するスリッパはフェルト製のものとの指示を受け、浅草の問屋街に出向いて、商品・価格調査を行いました。その結果、現在使用している素晴らしいスリッパがリーズナブルな価格で購入することができました。設備班の仕事は、今からがスタートです。今後、設備班のモットーであります「安全」「清潔」「厳肅」が維持できますよう設備全般にフットワーク良く対処していく所存です。

坐禅堂建設の会計を担当して

会計担当 刑部 一郎

坐禅堂建設の当初の概略予算は、支出として本体建築費は延床二八坪、坪一〇〇万円として二八〇〇万円、敷地造成費二〇〇万円、備品費二〇〇万円、式典費五〇万円、計三一五〇万円を計上しました。一方、寄付収入の見通しは、椎名老師と小畠代表からは二〇〇

〇万円、一般の方からの喜捨は二五〇万円、参禪会からは一〇〇〇万円と見積りました。

しかし、実際は最初から予算超過でした。

まず本体建築費が三一四〇万円、敷地造成費が三四〇万円と大幅に増えました。これは詳

細見積りをせず概略予算を決めたためで、最初から資金が不足することの連続でした。しかし厚い信仰心はありがたく、参禪会員や一般の方からの寄付が順調に集まり、薄氷を踏む状態ながらも建設工事は進んで行きました。

一般の会社では詳細な計画から予算を策定して行き、収入と支出がかなり詰められ、管理が可能な訳です。しかし、今回の坐禅堂建設の場合は、まず参禪会からの寄付の目標額一〇〇〇万円にしても、これが達成されるのかは推定の域です。支出の計画にしても、細部の詰めが不十分ですから、次々と当初の予算をオーバーする状況でした。

しかし逆に言えば、今回の最終の費用金額約四二〇〇万円が最初に分かっていれば、寄付予算が膨大になり、果たしてこんなに寄付が集められるのかと危ぶまれ、計画がなかなか進まなかつたのではないかとも思われます。当初は程々の予算規模から始め、集まつてくる寄付によつて、どんどん内容を拡充させ



毎回熱のこもった議論が交わされた建設委員会

と思われた便所追加工事を一五〇万円に押さえました。例えば建物班では五〇〇万円かかりそうだと想われた便所追加工事を一五〇万円に押さ

て行つた今回の進め方が、宗教団体の建設工事では仕方がないのかなと今思つております。資金がいつも不足気味で、そのため建設委員会はいつも苦労しており、従つて随分知恵と汗を出して頂きました。特に上棟式後に建物班、外構班、設備班の専門委員会が設置され、この三班の活躍により、かなり建設費が低減されました。

えることに成功しました。外構班はどう見ても一〇〇万円以上はかかると思われる雨水排水工事を、作業費は会員の作務によりゼロとし、支出は材料費のみとして、二〇万円の費用で完成させました。設備班は多数のメーカーの見積もり比較をし、詳細な技術検討を行い、設備費を大幅に低減しました。これらは建設委員会の熱意の賜物と思つております。

坐禅堂建設の会事は当初は気軽に引き受けました。予算が潤沢にあれば、お金の出し入れのみ管理しておればよいのです。しかし今回のようないつも資金が足りない状態では、寄付の集まり具合をみて、建設工事を収支面からブレーキをかける役割が大きい比重を占めていました。費用が高過ぎるなら削減をお願いするとか、中止を進言する等、憎まれ役の役割もしなければなりませんでした。一番辛かったのは、完成半年前に資金がどうしても二〇〇万円不足すると分かり、追加の寄付を参禪会でお願いしたことです。

今振り返ると坐禅堂はよく完成了ものだと思ふ。これは椎名老師のご熱意・ご人徳と、小畠代表をはじめとする参禪会会員の四〇年間の活動の力の賜物でないかと思えてなりません。

因みに、今回の坐禅堂建立にあたつてご寄付いただいた方は、平成二五年一月末日で一名、寄付金額は四二二九・八万円に至りました。これはひとえにご老師、小畠代表、参禪会会員の活動の賜物と存じます。

最後に坐禅堂建設にあたり、建設委員会の会計として、坐禅堂建設に少しでも貢献出来たことに感謝しております。

大震災のさなかでの坐禅堂調査

建設委員 添田 昌弘

二〇一一年三月二一日、世界中に大きな衝撃を与えた東日本大震災が起きた。その日、坐禅堂建設の参考とするために、近くにある坐禅堂の調査を行つた。最初に訪れたのは八千代市米本の長福寺さんである。

椎名老師および坐禅堂建設委員九名と宮大工の渡辺氏の二名で、四台の車に分乗して九時に龍泉院を出発。九時半に長福寺さんに到着。本堂で三拝の後、副住職さんの案内でき、坐禅堂に向かう。

外構、建物、設備各担当に分かれ、それぞれ予め用意したチェックシートに基づいて調査を始めた。内单、外单などの大きさや高さ

と数、窓の位置や大きさ、照明の位置と数、屋根の形等々を計測・記録し、写真に撮つたりして一〇時半に終了した。ここで渡辺氏と別れ、茨城県に向かつた。

一四時過ぎに結城市的孝顕寺さんに到着。大黒さんに案内して頂き、長福寺さんで行つたと同じように調査を開始した。孝顕寺さんの坐禅堂の单は大きく一畳程もある。

調査の最中の一四時四六分、坐禅堂が大きく揺れ出した。かなり大きな地震である。しばらく様子を見ていたが、なかなか収まらず、次第に大きくなる。危ないと外に出て本堂前の広場に集まる。山門が大きく揺れて倒壊するのではないかと思うほどである。

揺れますひどくなり、止めてあつた車がピヨンピヨン跳ねている。そのうち、お寺を開んでいる鉄の柵がドスンと音を立てて倒れた。山門前にある石塔も崩れている。

大黒さんが、坐禅堂の石油ストーブを消し忘れたのではないかと心配になり、グラグラ揺れている坐禅堂の中に入ろうとされるので、「今は危ないから、少しおさまつてから消しに行きましょう」と押しとどめ、大黒さんをかかえて山門の脇から離れる。揺れが少し弱まつた時を見計らつて坐禅堂に飛び込み、

石油ストーブを見ると、自動消火装置が働いて火はすでに消えていた。

揺れが幾らか収まつたところで大黒さんに挨拶して、同じ結城市的乗国寺さんに向かう。

余震の続くなか本堂から坐禅堂に入る、本堂の壁の一部が剥げ落ち、坐禅堂に通じる天井が剥がれ、廊下の雨戸が外れ落ちている。漆喰と土を混ぜて固めた黒光りする乗国寺さんの坐禅堂の床は大変立派である。椎名老師は「平成六年に落慶され、全国の修行道場に



大きく揺れて倒壊するかと思われた孝顕寺さんの山門

も、これほど見事な坐禅堂を備えたところは少ない」と仰られていた。

一通り調査を終了し、一六時過ぎ乗国寺さんを後にした。帰路の途中、大谷石の埠があちらこちらで倒れており、屋根の瓦も道路に飛散している。水道管が破裂し、水が噴出しているところもある。小さな橋は道路とずれて段差が出来ている。信号も停まつていて交差点を通過するのが危ない。あちこちで大渋滞を起こしている。

夕食の時間となつたが停電で食堂はもろんコンビニも閉まつてるので、孝顕寺さんや愛國寺さんからのお土産のお菓子を車中で頂くことにした。孝顕寺さん、乗国寺さんのお蔭で空腹を抑えることができ、大変助かりました。

龍泉院に戻つてきたのは二二時を過ぎていた。さらに家に着くまでが大渋滞で、二四時にようやく我家にたどり着いた次第である。

このような何百年に一度の事態にも拘らず、我々の調査に親切にご協力頂いた孝顕寺さんや乗国寺さん、および長福寺さんに深く感謝を申し上げたい。この時の調査が基になつて、我々の素晴らしい坐禅堂が完成できたと思うと、感無量のものがある。

坐禅堂建立のあゆみ

○周年記念事業の一つとして、自己の修行を深め、また普く修行の場を提供すべく、坐禅堂建立を発願しました。

万全の建立推進のため「坐禅堂建設委員会」を組織し、平成二二年二月から平成二五年一月の今日に至る三年の間、三回の検討会を重ねて参りました。

【坐禅堂建設委員会】

指導／椎名老師、委員長／小畠節朗、副委員長／五十嵐嗣郎、会計／刑部一郎、書記／杉浦上太郎

委員／中嶋宏誠、添田昌弘、松井隆、加藤孝、相澤善彦、中村正市、小山齋、小畠二郎、鈴木民雄、田上淳一、遠藤昇、山本聰

全委員は、本物の坐禅堂をとの願いを込め、適材適所による班編成にて、大車輪の活動を続けて参りました。委員の中には建築・土木の専門家もいて、設計図作成、建築チエック、雨水排水溝工事まで行いました。照明・防火器具、仏具、備品等の吟味・購入も行いました。一六名の委員が疾風の如く駆け抜けた三年間でした。

建築は、幸いにも柏市の宮大工・(株)工匠堂様に安心してお任せすることができました。また地域の有(イシイ)様の丁寧な造成工事、濱島石材店様からは基壇周りの石材・敷石の敷設工事寄附等の協力を頂戴しました。泉在住の染谷巨志氏には雨水排水溝工事に多大な尽力を頂戴しました。改めて厚くお礼申し上げる次第です。

竣工なつた今、ここに、建設委員会の活動記録をもとに、「坐禅堂建立のあゆみ」をご紹介申し上げます。
本坐禅堂が公共の修行道場として、広く活用されます
ことが私達の本望であります。

(文責・杉浦上太郎)

●坐禅堂建立発願宣言!

・H21年10月30日、「良寛さんと出逢う旅」二日目

・旅館・高島屋(新潟市)において、椎名老師より坐禅堂建立の提案がなされた

・参加者全員、即時賛同し、欣喜雀躍す

●第1回40周年記念行事準備委員会

結成

・開催/H22年2月28日、12名出席
・40周年記念行事内容、坐禅堂建設につき自由提案

●第2回40周年記念行事準備委員会

・開催/H22年3月13日、10名出席
・委員及び役員の決定(別掲)

・40周年記念行事内容決定①眼藏会、②在家得度式
・椎名老師より坐禅堂の資料の提示、中村委員に素案作成の依頼

●第3回40周年記念行事準備委員会

・開催/H22年5月16日、9名出席
・①眼藏会、②在家得度式の開催月日決定

・中村委員より坐禅堂設計図(案)提示、全般的協議
・第4回40周年記念行事準備委員会

・開催/H22年7月17日、9名出席
・中村委員の設計図の検討、現場確認

●第5回40周年記念行事実行委員会

・開催/H22年9月18日、10名出席
・委員会名を「40周年記念行事実行委員会」に改める



良寛様のお導きかく五合庵前にて>

・小委員会の設置を決める／①眼藏会、②在家得度式、

③記念講演会、④坐禪堂建設

●第6回40周年記念行事実行委員会

・開催／H22年10月17日、13名出席

・各小委員会毎に発表・検討

・坐禪堂小委員会から坐禪堂の計画案

が示される

●第7回40周年記念行事実行委員会

・開催／H22年11月14日、12名出席

椎名老師より、坐禪堂建設に関する

趣意書作成の指示

・坐禪堂の屋根の形を入母屋に決める

●第8回40周年記念行事実行委員会

・開催／H22年12月12日、8名出席

・相澤委員より、敷石提供の申し出

・坐禪堂建設委員会より、建設費用の概要説明

●第9回40周年記念行事実行委員会

・開催／H23年1月23日、12名出席

・椎名老師より、総代会で坐禪堂建設の快諾を得たとの報告

●第10回40周年記念行事実行委員会

・開催／H23年2月18日、10名出席

・建築業者の検討／株工匠堂・渡辺社長様来山、討議

・「勧募委員会」の設置（委員長／小畑実行委員長）

●第11回40周年記念行事実行委員会

・開催／2月の参禅会で「坐禪堂建立淨財勧募のお願い」の説明、

●坐禪堂見学会

・開催／H23年3月11日、10名出席

・見学先／①長福寺様（八千代市）、②孝顕寺様（結城市）、
③乘国寺様（結城市）

●第12回40周年記念行事実行委員会

・開催／H23年3月13日、9名出席

・孝顕寺様にて東日本大震災に遭遇

・敷地造成の有(イシイ)様に見積り依頼

・照明器具、火災報知器等設備検討

・一般向けに淨財寄進のお願い文を作成

・一般向に淨財勧募を開始

●第13回40周年記念行事実行委員会

・開催／H23年4月18日、12名出席

・加藤委員より増田測量設計様の紹介を得る

・建設は工匠堂様を第一候補に決める

●第14回40周年記念行事実行委員会

・開催／H23年5月1日、9名出席

・工匠堂様来山、建築資材高騰の状況確認

●第15回40周年記念行事実行委員会

・開催／H23年6月19日、8名出席

・「坐禅堂見学会」調査の分析資料の検討

●第16回40周年記念行事実行委員会

・開催／H23年8月28日、8名出席

・淨財勧募促進ポスター作成
(有)イシイ様来山、造成の打合せ

・工匠堂様より、坐禅堂建設の第一回目の見積書提出



中村正市委員による坐禅堂立面図



揺れに耐える孝顕寺様の山門

19

18

17

- ・開催／H23年9月25日、8名出席

- ・工匠堂様より、二回目の見積書提出
- ・相澤委員より、敷石の運搬計画説明

●第17回40周年記念行事実行委員会

- ・開催／H23年10月9日、8名出席
- ・工匠堂様来山、建設の契約書持参
- ・支払いに関する件も取り決め

○第18回坐禅堂建設委員会（名称変更）

- ・開催／H23年12月4日、10名出席
- ・造成工事は（有）イシイ様によつてスタート
- ・工匠堂様の加工工場見学会（12月21日）の実施を決める

○工匠堂様加工工場見学会（H23年12月21日、8名参加）

●第19回坐禅堂建設委員会

- ・開催／H24年1月22日、11名出席

- ・1月17日、柏市役所に確認申請書を提出
- ・地鎮式における鎮め物（写経を施した那智石）の容器として、三町さんより、つくばね焼の壺の寄進



厳粛に行われた地鎮式



地均し工事開始(平成23年11月)

20

- 第20回坐禅堂建設委員会

- ・開催／H24年2月26日、10名出席
- ・ご寄付を頂いた方に中間報告書を送付

- ・坐禅堂建設委員会の中に専門班を設置する①「建物班」、②「外構班」、
- ③「設備班」

●第21回坐禅堂建設委員会

- ・開催／H24年3月11日、10名出席
- ・基礎工事完了

●第22回坐禅堂建設委員会

- ・開催／H24年4月22日、13名出席
- ・上棟式の打合せ（工匠堂様同席）
- ・トイレ関連等について検討

- ・専門班ごとの質疑応答

●上棟式（H24年4月29日、10名出席）

●第23回坐禅堂建設委員会

- ・開催／H24年5月27日、10名出席

- ・濱島石材店様より基壇葛石の寄進

●第24回坐禅堂建設委員会

- ・開催／H24年6月30日、13名出席

- ・天井へ換気扇設置工事終了報告
- ・照明器具はすべてLED化することに決定



晴天下のもとで上棟式が厳修された



組立工事(平成24年4月)

- ・工匠堂建築位置の確認（工匠堂様、増田測量様）
- ・関係者立会いのもと境界線確認
- ・工匠堂様、遣形に着手する

●杭確認（H24年2月7日、4名）

- ・坐禅堂建築位置の確認（工匠堂様、増田測量様）

- ・関係者立会いのもと境界線確認

●地鎮式（H24年2月5日、11名出席）

- ・坐禅堂建築位置の確認（工匠堂様、増田測量様）

- ・工匠堂様、遣形に着手する

●杭確認（H24年2月7日、4名）

- ・坐禅堂建築位置の確認（工匠堂様、増田測量様）

- ・関係者立会いのもと境界線確認

● 第25回坐禪堂建設委員会

・開催／H24年7月22日、13名出席

・「烏賀沙摩明王像」を安置する厨子及び棚の検討

・雨水排水溝は、参禅会員による直営工事を検討

● 第26回坐禪堂建設委員会

・開催／H24年9月2日、11名出席

・坐禪堂「額」につき小畠委員長より寄進の申し入れ

・「額」「札盤」「烏賀沙摩明王像／安置棚・木枠」「堂頭椅子」

につき、工匠堂様に作成依頼する

・フェルト製スリッパの調査報告・検討

・工匠堂様来山、追加工事契約の調印

● 第27回坐禪堂建設委員会

・開催／H24年9月22日、11名出席

・工匠堂様来山、物入れ、下駄箱

の作製につき協議

・フェルト製スリッパの発注を決

める（50足）

・坐禪堂備品として「梆」「殿鐘」

・「太鼓」をリストアップ

○坐り初め（H24年10月28日）

● 第28回坐禪堂建設委員会

・開催／H24年10月28日、

12名出席

・外構班、他有志と雨水排水

溝工事に着手

・工匠堂様来山、二次追加工事

契約の調印

・「坐禅—実践とその心得—」、



坐り初め!緊張気味で入堂する会員諸氏(10月参禅会)

● 第29回坐禪堂建設委員会

・開催／H24年11月25日、12名出席

・坐禪堂竣工！・工匠堂様来山、

参禅会へ坐禪堂の引渡し

・独創的なデザインによる雨水排

水溝工事を実施中と報告

・「帳」と「簾」を石川法衣店

（京都）に発注する

・開單式の差定と費用を決定

● 第30回坐禪堂建設委員会

・開催／H24年12月2日、11名出席

・「烏賀沙摩明王像」の購入報告

・掃除道具の購入報告

・「坐禪牌」を石川法衣店に発注

● 第31回坐禪堂建設委員会

・開催／H24年12月23日、11名出席

・坐禪堂の活用（自由参禅）について討議

・ご老師より坐禪堂を宗務庁への届け出完了と報告

・「開單式」の招待者・記念品の検討



烏賀沙摩明王像



竣工なった坐禪堂

28

27

26

25

32

31

30

29

「坐禪堂—運営管理の心得—」案発表・討議

● 第32回坐禪堂建設委員会

・開催／H25年1月19日、9名出席

・「開單式」の記念品の発注（硯、風呂敷）

・「開單式」の差定解説、役割分担の取り決め

・フレンド様来山、開單式祝宴料理の打合せ

第三〇回 成道会

円成す

成道会が一二月一日（日）午前九時より行

われましたが、今回は三〇回目の節目の成道会でした。初めに成道された釈尊への報恩の坐禅を、新しい坐禅堂で二炷行つた後、本堂に移り成道会の法要が催されました。

今回の成道会には、永らくご病気で参禅会をお休みされていた寺田さんが、久しぶりにお見えになられ、ご老師との問答ではトップ

バッターを務められました。

また、五年間に渡る闘病生活から見事回復された清水さんには、ご老師から二〇年の参禅を讃える「全機現」と揮毫された額が贈られました。ご病気を試練の場と捉えそれを乗り越えてこられたお二人には、敬意を称したいと思います。

成道会では毎年ご老師が曹洞宗の偉いお祖師様をとりあげられ、その方の行実をつぶさにお話しされていますが、今年は江戸時代に活躍された黙山元轟（もくさんげんこう）（一六八三～一七六三）についてのお話しでした。

黙山元轟は江戸中期に「坐禅默山」と称さ

れ、枯木の如き坐禅一筋の生涯を送られた方です。一〇歳の時に出家を志し、一四歳の元禄九年に得度しました。黙山さんは毎晩裏山で坐禅をし、夜明けの鐘が鳴ると寺に帰つてきましたそうです。

やがて江戸へ出て駒込の吉祥寺の旃檀林に錫を留め、学問に打ち込まれました。その時、旃檀林の先生から「学問より人間をつくる方面のことを学ぶようにしなさい。そのためには下総五霞（茨城県猿島郡五霞町）にある東昌寺の隠之道顯禪師の下で修行しなさい」と勧められたのです。



ご老師と問答を交わす寺田さん

黙山さんはその後、出羽の渾藏庵や美濃の阿彌陀寺に住し、享保一八年に隠之道顯の後住として東昌寺二五世に就き、翌一九年には迦葉院（埼玉県久喜市）を開きました。

黙山さんは各地から招請され、お授戒を四〇回ほど行い、また多くの雲水の教導にも努めました。黙山さんの法を嗣いだお弟子さんは五三名にのぼり、住持した寺は八ヶ寺になりました。また黙山さんが住したお寺では、まず坐禅堂をつくることに尽力されました。そのため勧進し、自分の生活は「一粒の米の大きさは須彌山の如し」というように、同じ足袋を一〇年以上履き続けるなど、質素儉約を旨とする日々を送られたそうです。黙山さんが住持された東昌寺や迦葉院は比較的近くにありますから、一度訪れたいものです。

雲水さんにはひもじい思いをさせないよう努めました。



三〇回目の成道会

流山市 中嶋 宏誠

本堂が落慶した翌年の平成五八年一月に上山し、翌月一二月四日に第一回「成道会」が行われた。参加者は会員二三名、僧侶は野田市鏡円寺青陰孝光副住職ほか二名でした。

当日は今年と同じように、一時間程の坐禅、椎名老師の読経法要と法話、その後昼食、茶話会と、お釈迦様の成道を行つた。『光陰矢のごとし』あれから二九年、病にも遭わず人々に恵まれ、今も仕事ができ、三〇回目の「成道会」を完成したばかりの真新しい坐禅堂で迎えることができました。感謝・感謝です。

椎名老師との問答は「人生をふり返ると立向かう路は多岐でしたが、過ぎてみたら一本の道人ありて人ありわが無し」珍重！

今回出席された方で、第一回成道会から参加された方は小畠節朗・寺田哲朗・徳山浩・三町勲の四氏でした。

合掌

はじめての成道会

柏市 原 司

後期高齢の私にとって老いの不安は尽きな

い。心の平安を念じて龍泉院で坐禅を始めた。みなさんの援助によって一〇ヶ月がたち、成道会を迎えることになった。

釈尊が大自覚を得られた、この大行事に参加することで坐禅にいつそうの飛躍を期待していた。当日の行事の最初に行う坐禅に集中できるように二日前から予備練習をした。

緊張して客殿に入り坐禅者名簿に記入し、『第三〇回成道会差定』をいただく。午前九時から「点心」「座談」に入るまでの行事が詳しく示されている。一瞬、曹洞宗の一大行事の由縁を肌で感じる。

『差定』の中に「問答」の項目があつた。テレビや永平寺における修行僧の勤行の様子を見たことがあつたので、この「問答」の場面を連想した。

「この問答はどうするのですか」と、隣の方に尋ねた。

「どんなことを尋ねてもいいのです。質問のない方は問答をしなくてもいいのですよ」と聞かされ、私はほつと胸をなでおろした。

成道会の法要は本堂で行われた。ご老師が

座につかれ、梅花講の女性の方々の成道会和讃奉詠から始つた。堂内に満ちた和讃のハーモニーのなかで、私は緊張とともに、あらた

な気持ちの躍動を覚えた。

「問答」に入る前に、杉浦さんから作法について一言説明があつた。

「初めての方もおられますので、一言……。どんなことでもいいのです。ご老師にお尋ねください」。

私は質問に立たず、一〇名余の方々の質問

とこれに対するご老師のご発言に耳を傾けた。「問答」は交互の言葉のやり取りではなく、質問者が一つの悩みや考えを話すと、ご老師がこれにお答えになり、質問者はその場を離れる。この問「坐禅中の無念無想のむづかしさ」「極寒のなかでの坐禅体験」など、修行、日常生活のことが次々と出された。

私はご老師のお言葉の中から、特に、坐禅には看話禪と龍泉院の坐禅の仕方には違いがあること、また、只管打坐に徹すること、そして、修行と苦行とは異なることについて教えていただいた。

「点心」の行事になる。五觀の偈文を唱和して受食にはいる。精進料理を頂いたが、懐石料理店で食べた味と同じような美味で、これを私たちの仲間の典座役のお二人が料理されたと聞いて驚いた。無言のうちに進む食事の作法の中で、坐禅会の歴史を考え、畏敬の

念がわいてくる。代表幹事のほか数名の方の無言の接待、その心配りに、布施・利行・行動の言葉が浮かんできた。

「座談」の終わりは、ご老師の第三〇回成道会の感謝とお礼の言葉だった。特に「問答」について、「私を困らせるような難問を出してください。私も修行を重ね深めてこれに答えるよう精進します」と、私たちへ激励の言葉があった。私にとって、すがすがしい成道会だった。

全機現

我孫子市 清水 秀男

昨年一二月の参禅会において、椎名老師から、雄大で溢れるばかりの禅機と氣魄に満ちた「全機現」と揮毫して頂いた額を賜わりました。私は、老師のご法愛溢れる暖かくも厳しい三十棒を受けた感がいたし、頂いた途端、全身に電流が走り感極まつた次第です。そして、その宝物を仏間に掲げ、毎日合掌、反芻し、自らを省みる縁としております。

「全機現」とは、その人の全人格をあげた自在無礙な存分のはたらきが丸出しになり躍動し、吾我の迷いの世界から超出した悟りの



全機現と揮毫された額を掲げる清水さん

世界を表した言葉だと理解しています。

人の一生は今・今・今…の連続であり、死は生の延長線上にあるのではなく、死を背負って毎日生きています。従つて、今・此処の瞬間を完全燃焼させて悔いなく生きることの大切さを「全機現」から学び、残る人生、実践していくたいと覺悟を新たにしています。

最後に中部經典一三一『一夜賢者經』の言葉を味わいながら筆を擱きます。「過ぎ去れるを追うことなかれ。いまだ来たらざるを念うことなかれ。・・・ただ今日まさに作すべきことを熱心になせ。たれか明日死のあることを知らんや」。

合掌

新坐禅堂の「大雄峰」に独坐す

さいたま市 美川 武弘

念願の坐禅堂の完成、誠に慶賀にたえません。衷心より御祝い申し上げます。

これもひとえに椎名老師はじめ、代表幹事の小畠節朗さん、坐禅堂建設に関わってこられた龍泉院参禅会の建設委員諸氏、また、側

我々は、習慣の様に生き続けていると思つて いますが、実は一瞬一瞬変化して います。刻々に死に、刻々に生れを繰り返して います。従つて、生死を超えるには、生に当たつては

「生」に、死に当たつては「死」に、即今・只今、此處で、純一無雜に向き合つていくことの大切さを、教示したものと受けとめています。

増永靈鳳博士は、次の様に述べておられま す。「茫茫たる過去、漠々たる未来、それを

面より種々支援されてこられた参禪会道友
皆々様の並々ならぬご尽力の賜物と心より感
謝申し上げます。

いつの間にか後期高齢者の仲間入りさせら
れた小生も、昨今では身体的若いを否むこと
はできなくなつてまいりました。馬齢を重ね
るごとに足腰の筋肉の柔軟さが衰えて硬く
なり、基本坐法も儘ならず、情けないことに
は半跏趺坐も、まして胡坐さえも満足に組め
ぬありさまで。ここ数ヶ月前から不本意な
がら、坐蒲の代わりに椅子を利用して坐禅で
参禅させて頂いております。

さて、待望の新坐禅堂での初坐禅の日、真

新しい
坐禅堂
の内单
での椅
子坐禅

は無理
なので、
私は内
單での
参禪は
残念な
がらあ



「大雄峰」に独坐する美川さん(右から二人目)

「大雄峰」とは、百丈山（別名大雄山）の事で、百丈懷海禪師が住した江西省奉新県の大智寺聖禪寺（百丈寺）の背後に峻立する高峰の主峰である。馬祖道一の法を嗣ぎ、「一日不作、一日不食」の言葉で有名な百丈懷海禪師の公案「独坐大雄峰」（碧巖錄 第二六則）より借用した禪語です。

思えば、仏教には全くの門外漢だつた私ども夫婦が、ご縁を得て龍泉院参禪会に入会させて頂いた平成八年（一九九六）は、図らずも龍泉院参禪会発足二十五周年の節目の（小生にとって還暦を迎えた）年でした。発足二十五周年を記念して特別に企画された「中国五山巡礼の旅」へ夫婦共々参加させて頂いたお蔭で、今日もなおご縁を頂いていることを今

きらめた。外單では椅子坐禅場所（單）は出来るだけ坐禅堂出入口に近い一隅にと決めた。こなれば誰にも気兼ねせず、どかっと、

気ままに坐ることができそうだ。もつとも、椅子坐禅では、『どつしり』とか、『どかつと』とかいう態様の姿は想像できぬが、せめて気分的にはそうありたいと願つたからだ。そして、以降この場所を百丈禪師に倣い、心密かに我が「大雄峰」と名付けて、自己対峙の場と勝手に決めさせて頂いている。

特別記念行事の「中国五山巡礼の旅」のハイライトは、中国浙江省寧波市郊外の道元禪師ゆかりの地、天童寺参拝と同寺での一泊参禪でした。天童寺での一泊参禪の興奮と感動のさめぬうちに、何か中国旅行記念としての土産を買い求めようとして立ち寄った同寺の売店で、力強く書かれた「独坐大雄峰」の言葉が気に入り記念の土産にと買い求めてきました。これが百丈禪師の禪語「独坐大雄峰」との初めての出逢いです。以来、我家の仏事の際には必ずこの掛軸を床の間に飾らせて頂いております。

願わくば、この度の龍泉院坐禅堂建立を契機に次世代の多くの若い人達にこの坐禅堂を大いに活用して頂ければと祈念いたします。

合掌



天童寺参禪記念の御朱印

◇ ◇ 会員便り ◇ ◇

●三月の月例参禅会で、『坐禅実践とその心得』に基づき、新しい坐禅堂における坐禅のルールを年番幹事から説明いたします。四月からは新しいルールに則りしつかりと坐りたいものです。

四月から第二土曜日の午前九時から一時まで、自由参禅ができるようになります。この間は入退堂自由で坐ることができます。また経行も各自自由に行うことができます。午後一時から一二時までは、作務として坐禅堂の掃除を行います。掃除の仕方については『坐禅堂運営管理の心得』をご覧ください。

沼南雑記

【定例参禅会・年間行事】

●平成二四年	() 内は座談の司会者
●九月二十三日	三三名 (逢坂 國一氏)
●一〇月二八日	三五名 (久光 守之氏)
●一一月二五日	三一名 (加藤 孝氏)
●一二月二一日	二六名 成道会
幹事 小畠 節朗氏	年番幹事 小畠 節朗氏

●平成二五年	年末煤払い
●一月二七日	三七名 (武田 博志氏)
●二月二三日	新年会 幹事 杉浦上太郎氏 於「うどん市」 二三名
●二月一五日	五十嵐嗣郎氏 一一名
●二月二十四日	涅槃会 (小山 齋氏) 三六名

▼『明珠』五九号記念号発行には参禅会員生の皆様から坐禅堂完成についてお祝いや、新しい坐禅堂に坐った感想、坐禅堂建設に携わった方々への感謝などが多く寄せられました。また、建設委員の皆様からは、それぞれの立場や役割について詳細な記述や、その達成感がなどが寄せられました。

「坐禅堂」を会員の皆さんで建設しましょう」と椎名老師からご提案頂いたのは、平成二一年一〇月三〇日、「良寛さんと出逢う旅」の旅館・高島屋での夕食の席でした。以来三年四カ月間でこの表紙のように光り輝く立派な坐禅堂が完成し、開單式を迎えるまでに漕ぎつけたのです。佐々木宏幹先生が『明珠』創刊五〇号で述べられた「坐禅の力」でしょうか、今、立派に坐禅堂建設事業が完成し、その達成感に浸っています。山登りに喻えるならばひたすら頂上を極め三六〇度見渡す限りの眺望に陶酔し、その達成感に満足してい

る思いと同じです。
さて、確かに器はできました、が中身はこれからです。会員の皆さんと共に地についた禪の歩みをこの初々しい坐禅堂において一步一歩、歩み続けたいものです。

(隆道)

▼坐禅堂を施工された工匠堂の渡辺社長から頂いた原稿には、宮大工さんの社寺建築に対する篤い思が語られていました。社寺建築に関する知識不足で理解できない箇所もありましたが、何百年後に解体修理される時の匠に対しても、今回の坐禅堂建築についての棟梁の考えが伝わるように作業されたとの一文には、いたく感動しました。我々も参禅会が幾世代にわたって続くように努めなければならないと、改めて自誠させられた。杉浦さんがパソコン操作の技術をフルに發揮して作成された「坐禅堂建立のあゆみ」は圧巻です。坐禅堂建立の経緯を分かり易く纏めて頂き、素晴らしい記録集が出来ました。杉浦さんは三回にわたり建設委員会の議事録を全て作成され、それを元に今回の記録集を作成されました。杉浦さんの不斷の努力には頭が下がります。

(秀嗣)

龍泉院参禅会簡介

【参 禅】

一、定例参禅会

日 時 每月第四日曜午前九時（初参加者は八時半）来山、正午解散
坐 禅 口宣・坐禅・経行・坐禅の順
（坐禅は一炷三〇分、経行は一〇分）
講 義 木版三通・開経偈・『正法眼藏』の提唱
座 談 自己紹介・お知らせ・喫茶

一、自由参禅

日 時 每月第二土曜午前九時から正午まで
坐 禅 九時から一一時まで（入退堂自由）
作 務 一一時から正午まで坐禅堂掃除

※会費無料、年齢・性別など一切不問、初心者には懇切に指導

【年間行事】

一、一夜接心 本年は六月八～九日、一泊し坐禅七炷と提唱等
二、成道会 本年は二二月八日、坐禅二炷・法要・問答・法話等
三、他の行事 涅槃会（二月一五日）、花祭り（四月八日）、施食会（八
月一六日）手伝い、歳末煤払い（二二月例会後）

一、作 務 每月第一と第三金曜日及び第二土曜に境内の掃除等

【会報誌】

一、『明珠』 年二回発行（四月八日と一〇月五日）

二、『口宣』 年一回発行（二月）

「ウェブサイト <http://www.ryusenin.org/>」『明珠』『口宣』のバックナンバーがご覧になれます。

龍泉院

參禪會会報

坐禪堂建立記念号

● ●
印 發

行／天德山龍泉院
刷／岡田印刷株式会社

千葉県柏市中央1-1-1
2081

0044(71191)
7164160959

